

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ハスチムガ（近衛 飛鳥）

氏名のローマ字表記：Khaschimeg (KONOE Asuka)

所属：千葉工業大学

専門分野：モンゴル近現代史

発表タイトル：内モンゴルにおける聖母聖心会の衛生・医療活動に関する研究

発表要旨（600～800 字程度）

報告者は、19 世紀末から 20 世紀葉半まで聖母聖心会の宣教師たちが内モンゴルの衛生医療の近代化に果たした役割の解明を課題としている。具体的にはおもに 1862 年にベルギーで成立し、それ以降は内モンゴル西部で布教と共に実施した衛生医療活動と看護教育に着目する。聖母聖心会の宣教師たちが布教活動の一環とした展開した衛生医療事業はどんな内容からなるのか。モンゴルの王公貴族たちと政府衙門は宣教師の衛生医療活動にどう関わっていたか。こうした課題について整理し分析する。

本報告ではまず、宣教師たちがモンゴル教区の建設に伴う衛生医療事業を展開した経緯を記した『塞外傳教史』と『内蒙古文史資料』、Patrick Taveirne 著 *Han-Mongol Encounters and Missionary Endeavors, a History of Scheut in Ordos(Hetao) 1874-1911, Bulletin de l'Institut Historique de Belge de Rome* 等の記録を整理する。

次に、西洋宣教師の衛生医療事業の展開について、史料調査で発見した *Ordos barayun yarun dumdadu qusiyun-u teüke-yin Mongyol dangsa ebkemel-ün sungyumal* というモンゴル語の档案群内の資料を用いて、清末期までの聖母聖心会のオルドスでの活動と、現地のモンゴルの王公貴族と政府衙門の衛生医療活動への関与について分析する。

最後に、日本防衛所図書館に保管されてある聖母聖心会関連の調査記録と王学明神父の『歸綏公教医院』、平山政十『蒙疆カトリック大観』等戦時中の調査報告について分析する。歸綏に建設された「公教医院」の建設経緯と規模、医療技術者、具体的な医療活動と各地に存在した複数の診療所の経営状況について考察する。それによって宣教師たちの取った布教手段が効果的であったという仮説を提示する。

近代以来、モンゴルには少なくとも三つのルートで近代西洋医学が伝わった。その中の一つがカトリック宣教師による近代西洋衛生医療事業である。本研究の進展により、19 世紀末から世界第二次大戦終戦直後まで聖母聖心会宣教師の活動によって近代西洋衛生医療が内モンゴル西部地域で本格的に展開され始めたプロセスの一環が明らかになる。